開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1年	1	選必
担当教員			
中村 雅典			
G (現代ビジネス学科)	L (基礎科目)	LG (語学・言語学)	101 (基礎・入門科目)

授業のねらい (概要)	<p>高校まで学習してきた英文法知識をもとに、新たな視点・考え方で英単語・英文法を身に付けます。大学受験や検定試験等で文法の知識を身に付けたとしても、実際に使いこなしていく段階に入ると、暗記による表面的な英文法知識では、すぐに限界が来てしまいます。そのため、英文法を「規則」として捉えるのではなく、英単語一つひとつがもっている個々の「概念・イメージ・中心義」を理解します。次に、それぞれの語の感覚を掴み、ネイティブと同じ方法で英語表現を深く理解していきます。丸暗記の文法学習から、自分のココロ・気持ちを表現できる、「生き生きとした英語表現方法」を身に付けます。またグループワークを通して、履修生同士がお互いのアイデアを共有し、自身の学びと互いの学びを高めていきます。</p>
授業計画	<p>第1回 【遠隔 (前期のみ)】 オリエンテーション 授業概要の説明、成績評価の方法、グループ分け、語彙学習 予習 (時間) : シラバスでどのような内容の英語を学習するのかを理解する。 (30) 復習 (時間) : オリエンテーション内容の復習と本日の課題をこなし、次週のスマールテストに備える。 (30)</p> <p>第2回 【遠隔 (前期のみ)】 前置詞 (on, to, for, in) 今回は「前置詞」を取り上げます。知っているようで間違ったイメージを持ちやすい前置詞にフォーカスをあて、前置詞をイメージできるようになります。スマールテスト①実施予定。 予習 (時間) : 先週の課題を見直し、分からない単語やフレーズを覚え、スマールテストに備える。 (30) 復習 (時間) : 授業で扱った文法項目を配布資料にしたがって復習をし、「なぜそのような文法表現を使用するのか」を説明できるようにする。 (30)</p> <p>第3回 【遠隔 (前期のみ)】 冠詞 “the” と “a” の使い分け 今回は「冠詞」a, the, そしてゼロ冠詞を取り上げます。日本語母語話者には馴染めない文法項目。ちょっとしたコツを掴むことで、どちらを使えばよいか自分で判断できるようになります。スマールテスト②実施予定。 予習 (時間) : 先週の課題を見直し、分からない単語やフレーズを覚え、スマールテストに備える。 (30) 復習 (時間) : 授業で扱った文法項目を配布資料にしたがって復習をし、「なぜそのような文法表現を使用するのか」を説明できるようにする。 (30)</p> <p>第4回 【遠隔 (前期のみ)】 thatの役割 今回は、thatを取り上げます。that節、that以下、関係代名詞、あの・そのthat・・・様々な用法があるので、ややこしい側面があるthat。thatのイメージを掴むことで、文法項目を意識することなく使えるようになります。スマールテスト③実施予定。 予習 (時間) : 先週の課題を見直し、分からない単語やフレーズを覚え、スマールテストに備える。 (30) 復習 (時間) : 授業で扱った文法項目を配布資料にしたがって復習をし、「なぜそのような文法表現を使用するのか」を説明できるようにする。 (30)</p> <p>第5回 現在完了と過去の関係 今回は「現在完了と過去」にフォーカス。かなり微妙な違いが生まれる現在完了と過去。空間や時間の捉え方次第、つまり、過去の事例に対してどのように感じているのかを直接表現できるようになります。スマールテスト④実施予定。 予習 (時間) : 先週の課題を見直し、分からない単語やフレーズを覚え、スマールテストに備える。 (30) 復習 (時間) : 授業で扱った文法項目を配布資料にしたがって復習をし、「なぜそのような文法表現を使用するのか」を説明できるようにする。 (30)</p> <p>第6回 非進行形 vs. 進行形 今回は「進行形」をメインに扱います。動詞にingを付ければ進行形の「カ・タ・チ」にはなりませんが、それだけの知識では十分に会話で使いこなすまでのレベルになりません。しっかりとしたingのイメージを捉えることにより、進行形と非進行形の違いをわかるようになります。スマールテスト⑤実施予定。 予習 (時間) : 先週の課題を見直し、分からない単語やフレーズを覚え、スマールテストに備える。 (30) 復習 (時間) : 授業で扱った文法項目を配布資料にしたがって復習をし、「なぜそのような文法表現を使用するのか」を説明できるようにする。 (30)</p> <p>第7回 【課題 (前期のみ)】 前半部総復習 今回はミッドタームテスト前の総復習です。今までの配布資料やスマールテストを見直ししていきます。特にスマールテストで点数が取れなかった説明の問題にフォーカスをあて、弱点部分を補強することにより、理解度を高められます。スマールテスト⑥実施予定。 予習 (時間) : 今までのスマールテストを再確認し、理解度が低い項目や、あいまいな点など確認し、授業で質問できるようにリストアップしておく。 (60) 復習 (時間) : 前半部総復習で明らかになった弱点を再確認し、次週のミッドタームテストに備える。 (90)</p>

第8回	<p>ミッドタームテスト</p> <p>今回はミッドタームテスト本番日です。到達目標にも書いてあるように、各文法項目に対し、なぜそのように使われているのか説明ができることを求めます。理解しているだけではダメです。自身の理解度を自分の文章で表現してください。</p> <p>予習（時間）：今までのスモールテストを再確認し、理解度が低い項目や、あいまいな点などを見直す。（60）</p> <p>復習（時間）：ミッドタームでできなかった項目を見直し、次回の授業で質問できるようにリストアップしておく。（60）</p>
第9回	<p>【課題（前期のみ）】ミッドタームテストフィードバック</p> <p>今回は前回実施したミッドタームテストのフィードバックを行います。どこで躓いたのか、また、どのレベルの説明が求められるのかを再確認します。履修者同士で解答を共有しながら、お互いの解答の質を高め、ファイナルテストに繋げていきます。</p> <p>予習（時間）：先週実施したミッドタームテストでできなかった箇所を質問できるようにリストアップを行う。（30）</p> <p>復習（時間）：ミッドタームでできなかった項目を見直し、ファイナルテストに向けて説明できるようにする（60）</p>
第10回	<p>動名詞 vs. 不定詞</p> <p>今回は「動名詞と不定詞」を取り上げます。日本語で訳すと同じ訳になってしまうことから、区別がつきにくく厄介ですが、動名詞・不定詞のイメージを掴むことで、ネイティブスピーカーが交わす細やかなニュアンスを理解できるようになります。スモールテスト⑦実施予定。</p> <p>予習（時間）：先週の課題を見直し、分からない単語やフレーズを覚え、スモールテストに備える。（30）</p> <p>復習（時間）：授業で扱った文法項目を配布資料にしたがって復習をし、「なぜそのような文法表現を使用するのか」を説明できるようにする。（30）</p>
第11回	<p>未来の多様な表現方法</p> <p>今回は「未来表現」を取り上げます。未来表現方法は1つでしょうか。我々は未来のものを考えることができません。不確定な未来だからこそ、さまざまな表現方法が存在してしまうのです。表したい未来に関してイメージを掴むことで、適切な表現で未来を表すことができるようになります。スモールテスト⑧実施予定。</p> <p>予習（時間）：先週の課題を見直し、分からない単語やフレーズを覚え、スモールテストに備える。（30）</p> <p>復習（時間）：授業で扱った文法項目を配布資料にしたがって復習をし、「なぜそのような文法表現を使用するのか」を説明できるようにする。（30）</p>
第12回	<p>助動詞の役割分担</p> <p>今回は「助動詞」を取り上げます。動詞を助けると書く「助動詞」は、助動詞だからこそ運ぶことができる、話者が抱いているニュアンスをきめ細かく表現できます。主要な助動詞のイメージを掴むことにより、自分の気持ちを直接英語に載せることが簡単にできるようになります。スモールテスト⑨実施予定。</p> <p>予習（時間）：先週の課題を見直し、分からない単語やフレーズを覚え、スモールテストに備える。（30）</p> <p>復習（時間）：授業で扱った文法項目を配布資料にしたがって復習をし、「なぜそのような文法表現を使用するのか」を説明できるようにする。（30）</p>
第13回	<p>控え目表現と過去形の関係</p> <p>今回は「控え目表現」を取り上げます。控え目表現では、過去のことを言っているわけではないのに、頻繁に過去形が使われます。そのミステリーが今回で明らかになります。控え目表現のイメージを掴むことにより、TPOをわきまえた大人の英語を修得することができます。スモールテスト⑩実施予定。</p> <p>予習（時間）：先週の課題を見直し、分からない単語やフレーズを覚え、スモールテストに備える。（30）</p> <p>復習（時間）：授業で扱った文法項目を配布資料にしたがって復習をし、「なぜそのような文法表現を使用するのか」を説明できるようにする。（30）</p>
第14回	<p>仮定法の成り立ち</p> <p>今回は「仮定法」を取り上げます。仮定法においても、過去のことを言っているわけではないのに、過去形が使われます。なぜ過去形を使うと仮定になるのかの理由がわかります。そのイメージを掴むことにより、複雑と言われている仮定法に関しても、自由に使いこなせるようになります。スモールテスト⑪実施予定。</p> <p>予習（時間）：先週の課題を見直し、分からない単語やフレーズを覚え、スモールテストに備える。（30）</p> <p>復習（時間）：授業で扱った文法項目を配布資料にしたがって復習をし、「なぜそのような文法表現を使用するのか」を説明できるようにする。（30）</p>
第15回	<p>【課題（前期のみ）】後半部総復習</p> <p>今回はファイナルテスト前の総復習です。今までの配布資料（第1回目から第14回まで）やスモールテストを見直していきます。見直しでは特にミッドタームテスト以降の文法項目を中心に行い、スモールテストで点数が取れなかった説明の問題にフォーカスをあて、ファイナルテスト前に、弱点をなくしていきます。スモールテスト⑫実施予定。</p> <p>予習（時間）：今までのスモールテストを再確認し、理解度が低い項目や、あいまいな点など確認し、授業で質問できるようにリストアップしておく。（60）</p> <p>復習（時間）：後半部総復習で明らかになった弱点を再確認し、次週のファイナルテストに備える。（90）</p>
授業を通して身に付けることができる能力（DP）	<p>DP（短期大学部）の次の項目を意識した科目になっている。</p> <p>2. 基礎的知識を身に付けており、学んだことを発信できる能力</p> <p>【身に付くスキル】</p> <p>発信力・主体性</p>

到達目標	① 英単語や英文法が持っている「意義・概念・イメージ」を理解することができる。 ② なぜ「そのような文法表現が使われているのか」①の知識を活用し、文章で説明できるようになる。 ③ 英語から日本語のアウトプットの練習を通じ、基本英単語の意味を瞬時に答えることができる。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	スモールテストに関しては、その場で答え合わせを行いフィードバックを行います。 中間テストに関しては、次週の答え合わせ時にフィードバックを行います。 期末テストに関しては、学期終了後となりますが、必要な学生に対し個別でフィードバックを行います。
履修上の注意	この講義では、毎回出席（やむをえない場合を除く）が原則です。いかなる理由で欠席されたとしても、その日の授業は進んでいます。“欠席したから宿題がわからなかった”または“欠席した日の復習が出来なかった”等は通用しません。自ら動き、授業内容の穴を埋めることが重要です。また、授業開始直後にスモールテスト（前回分の復習確認テスト）を行うので、遅刻や欠席をしてしまうと受けることができなくなるので注意すること。
成績評価の方法・基準	・スモールテスト（30%） ・中間テスト（30%） ・期末テスト（40%）
教科書	なし（毎回資料を配布します）
参考書・教材	【参考書】NHK3か月トピック英会話 ハートで感じる英文法 著者名：大西 泰斗、ポール・マクベイ 出版社：NHK出版 発行年：2005年 価格：1026円／一億人の英文法 ——すべての日本人に贈る「話すため」の英文法 著者名：大西 泰斗、ポール・マクベイ 出版社：東進ブックス 発行年：2011年 価格：1944円
備考	2020年度前期のみ、7、9、15回目を課題研究として学修する。 第7回 授業期間の前半で扱った文法項目に関し、指示したテーマについてレポートを作成し提出する。実作業全体で150分の学修を想定している。 第9回 授業期間の前半で扱った文法項目に関し、指示したテーマに沿って英文を作成し提出する。実作業全体で150分の学修を想定している。 第15回 授業期間の後半で扱った文法事項に関し、指示したテーマについてレポートを作成し提出する。実作業全体で150分の学修を想定している。
教員との連絡方法	「メール」、「オフィスアワー」での質問でももちろん問題ないですが、一番速く、また授業と連動したフィードバックがとれるのが、「Melly」です。授業に対する質問に関しては、Mellyで連絡をいただくとありがたいです。